

扶桑菅廟最初  
防府天満宮

佐加太利とは御鎮座地天神山の古来名「酒垂山」からとったものです

# 佐加太利

令和5年  
春夏号

111号

目次

1 点描／緑雨

2 巻頭言

3 令和九年菅原道真公  
御神忌千二百二十五年  
式年大祭

奉賛会設立奉告祭、設立総会、  
発会式実行

4 防府天満宮敬神婦人会  
創立五十周年記念式典

5 輪くぐり／三つのなぜ？  
水無月の大祓によせて

6 こころのふるさと

7 防府天満宮  
防府天満宮天神講社の調査を通して

8 崇敬会だより

9 TOPICS

結婚おめでとう  
天神おんな神輿写真コンテスト  
ひたぶる

10 社務所だより

11 天神様の冬から春／日誌抄

12 これからの祭事行事





毎年四月二十九日には防府商工会議所が主催する「春の幸せますフェスタ」が開催されます。その中心となる行事は防府駅前から防府天満宮までの一・五キロを進むパレードです。今年のパレードでは天神おんな神輿のほか各企業で結成された「おんなみこし」や陸・海・空の自衛隊、更には沖繩の米軍海兵隊による音楽隊また防府青年会議所のメンバーによる時代行列など様々なパフォーマンスが企画されました。その中で今年はあと四年と迫った防府天満宮の千二百二十五年大祭をみんなで盛り上げようと防府青年会議所が募集した高校生二十五名の巫女さん（当初は千二百二十五年にこだわって千二百二十五名が扮する巫女さんパレードにしようとの意気込みもありましたが、笑）がパレードに参加することになりました。

しかし、当日は生憎の天候となりパレードは中止、できる限りのイベントを地域交流センター内で行うことになりました。そんな「フェスタ」のスタートではありましたが、有難いことに館内は音楽隊の演奏を聞こうと満員御礼の盛況ぶりでありました。その中で天満宮千二百二十五年大祭を来場者に伝えようと実行委員会とも協議をして、臨時の巫女が急遽音楽ホール前のロビーで千二百二十五個の紅白餅を配ったり、秋の花神子社参式のPRにと花神子体験会を開いたりしました。更にまたステージでは天神おんな神輿も登場し、司会者と共に「千二百二十五年式年大祭をみんなで盛り上げましょう」と令和九年に向けて威勢よく掛け声を掛けてくれました。

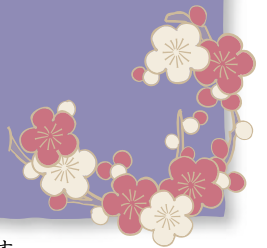
本年四月二十一日には特別財団法人毛利報公会会長毛利元敦様を総裁に迎え「菅原道真公御神忌千二百二十五年式年大祭奉賛会」が設立されました。設立総会では役員総代また敬神婦人会など天満宮関係団体、更には崇敬会東京支部のジェニー牛山支部長を始め奉賛会の役員、参与の多くの会員の方にもご出席頂き四年後の大祭に向けスタートを切らせて頂きました。


政治経済そして外交に至るまで内憂外患のこの世の中ではありますが、コロナ禍という大きな壁を越えようとしている今を好機と捉え、天神さまの御神威を戴く私たちは地域のご協力を頂きながら、令和九年に斎行される菅原道真公千二百二十五年式年大祭を天満宮そして地域発展の大きな推進力にしなければいけないと考えております。



# 「地域の皆様に支えられて」

宮司 鈴木宏明



※本ページの天地に掲載した（重文）松崎天神縁起絵巻は、全六巻計約75メートルにおよびます。本号ではその  の部分を紹介しています。





# 令和九年菅原道真公

# 御神忌千百二十五年

# 式年大祭

# 奉賛会設立奉告祭、設立総会・発会式斎行



## 奉賛会役員

**総裁** 毛利 元敦  
**顧問** 福田百合子 防府天満宮崇敬会会長  
 岡 正朗 山口県立大学理事長

高樹のぶ子 作家  
 馬場 良治 日本画家

山中 祥弘 メイウシヤマ学園理事長  
 ジェニー牛山 ハリウッド美容専門学校校長  
 喜多村 誠 防府商工会議所顧問・防府通運(株)代表取締役社長・責任役員

**会長** 田中 康男 (株)丸久代表取締役社長・責任役員  
**副会長** 羽嶋 秀一 防府商工会議所会頭・責任役員  
 宇野 好一 責任役員

**監事** 中谷 泰 防府観光コンベンション協会会長、副会頭  
 嶋本 博 責任役員  
 中村 元彦 副会頭・責任役員  
 古閑 謙士 副会頭

**常任理事** 脇 正典 責任役員  
 小松 宗介 責任役員  
 杉本 一彦 責任役員  
 白石 民彦 責任役員  
 藤本 晃二 副会頭  
 澤田 健規 裸坊奉仕会会長  
 藤本 利範 宮木工棟梁

## 理事

村田 敏夫 責任役員  
 山田 拓男 責任役員  
 小山 昌弘 責任役員  
 山根耕太郎 責任役員  
 大浜 悟史 責任役員  
 野村 芳子 責任役員  
 岸 正人 責任役員

以上



▲毛利総裁(中央)と、羽嶋会長(左)により式年大祭看板が掲揚された。

四月二十一日、防府天満宮責任役員、総代他が参列し奉賛会設立奉告祭が斎行され、祭典後、場所を楼門前に移して式年大祭看板が掲げられました。

引き続き参集殿にて奉賛会役員・参与、約一五〇名が集い、設立総会並びに発会式が行われました。総会では奉賛会会則や記念事業、予算並びに役員が決議されました。

次に、防府天満宮崇敬会東京支部顧問、奉賛会顧問の山中祥弘氏により「メイ牛山のふるさと」と題し記念講演が行われた後、発会式に移りました。ここで毛利元敦奉賛会総裁をはじめ、池田豊防府市長、相山華子氏(防長俱樂部)より丁寧なるご祝辞を賜りました。最後に宮司からは「役員総代氏子崇敬者すべての方々からのご協賛を頂き、天満宮の発展により防府のまちの発展に繋げたい」と決意と御礼の挨拶をし、閉会しました。



▲110年式年大祭時に建立された芳名石柱。



記念事業については、「さかたり」110号に掲載しています。

## 会員の区別と特典

会員名称	奉賛額	芳名簿永久保存	芳名石柱建立	1125年祭 御案内	感謝状又は礼状	記念品	特別記念品(天)	特別記念品(満)	特別記念品(宮)	記念誌(新・考録含)
特別名誉会員	五百万円以上	●	単独	●	●	●	●			●
名誉会員	百万円以上	●	合同	●	●	●				
特別会員	五十万円以上	●	合同	●	●	●				
有効会員	十万円以上	●		●	●	●				
正会員	三万円以上	●		●	●	●				
準会員	三万円未満	●		●	●	●				

## ご奉賛のお願い

奉賛金申込書と封筒を同封しております。皆様方の心篤いご奉賛をお願い申し上げます。

<b>大祭予算</b>	二億二千万円
募財目標	氏子募財 五千万円
	一般募財 一億二千万円
	天満宮 五千万円





①鷹司会長よりご祝辞



▲式典を前に御殿にて奉告祭を斎行。鷹司会長(向って 宮司左)を始め御来賓、鈴木会長(同 右)以下役員が参列しました。

その後、記念講演②、記念演奏③と続き懇親会では、コロナも落ち着いたこともあり数年ぶりに顔を合わせた会員同士親睦を深めることができました。

最後に鈴木会長は「令和九年に迎える防府天満宮の式年大祭に向けてお力になりますよう今後とも会員の増加を目指して活動していきます。」と今後の会の方針を示されました。

# 防府天満宮敬神婦人会 創立五十周年記念式典

令和五年五月十日、防府天満宮参集殿において全国敬神婦人連合会会長鷹司久美子様、防府市長池田豊様、山口県神社庁長真庭宗雄様、会員百五十名他多くのご臨席を賜り、記念式典が行われました。

式典では、先ず鈴木会長が「当敬神婦人会は昭和四十八年に発足し、『神道精神を家庭に』をスローガンに歴代会長会員皆様のご協力のもと今日まで楽しく和気あいあいと活動し、本日の五十年を迎えることができ、感謝申し上げます」と述べられました。また、長年当会の活動に多年に渡り役員を務めてこられました方々に宮司より感謝状と記念品を贈呈致しました。鷹司会長のご祝辞では「地域社会の繋がりが希薄化する中で、防府天満宮の行事に会員皆様が奉仕している姿は、神社と地域を繋ぐ架け橋であり今後ますます重要になることでしょう」とのお言葉を賜りました。



②記念講演ではKRY山口放送アナウンサー高橋裕様(右)に「生放送とともに…」という演題でご講演を頂き、生放送中の様々なハプニングなどをユーモアたっぷりに話され、終始笑いの絶えない講演となりました。



③記念演奏では「バンブーレゾナンス・やまぐち」の皆様演奏いただき花を添えて頂きました。使用している竹楽器は全て、メンバーやボランティアが、地元の竹を使って手作りしたもので、心地よい音色にこころ癒やされました。



▲50周年記念として、防府天満宮に「テント天幕1張」「傘立て2台」が奉納され、奉納目録が鈴木会長(右)から、鈴木宮司に贈呈されました。

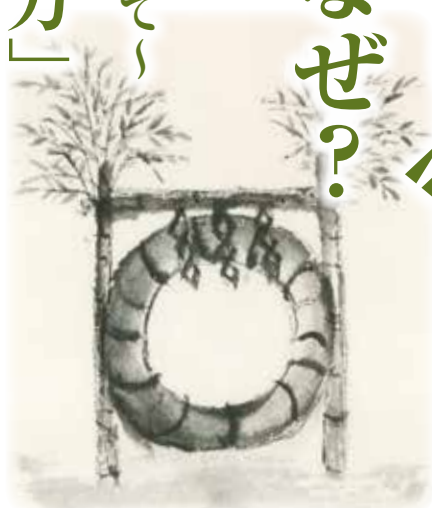


# 〃輪くぐり〃

## 三つのなぜ？

水無月の大祓によせて

キーワードは「生命力」



輪くぐりは、毎年6月の大祓に行われる神事で、一般的な輪は茅で作られ「茅の輪くぐり」と呼ばれています。この神事の由来は、備後国風土記に、スサノオノミコトに宿を貸し、疫気のあるときに茅の輪を腰につけると免れると教えられたという神話に基づくものです。この神話が長い時間が経つうちに輪をくぐるという儀式に変化したものと言われています。

それでは、輪はなぜ茅(カヤ)なのでしょう？

カヤは、生命力の強い植物です。切っても切っても再生する姿に生命力を感じ、また、葉先が鋭く剣を連想させることから「薙ぎ払う」という意味で魔除けの意味もあるようです。また更に「ちがや」の「ち」は血であり、乳でもあるので、

命の根源に関わるものに繋がるといわれています。

ですから茅は見ても聞いても私達に生命力を与えてくれる存在と言えましょう。

では、なぜ

輪をくぐるのでしょか？

川端康成の「雪国」ではトンネルを抜けると突然情景が雪国に変わり、宮

崎駿監督のアニメ「千と千尋の神隠し」でも主人公がトンネルを抜けると八百万の

神々が住む世界に入り込んでしまいます。このように「くぐる」とは通常の世界から別の世界へ導くための儀式といえそうです。私達は日常的にも「くぐる」という行為により別世界へと繋がる疑似体験をしています。例えば、鳥居をくぐったり、茶室のにじり口をくぐったりしています。くぐる理由は諸説ありますが、鳥居も躡り口も俗世との境界を意味し、特に茶室は聖なる場といわれ、この空間を母胎と考えれば「躡り口」は産道と解され、「くぐる」は母胎回帰の作法ともいわれています。

ですからこの輪くぐりの「輪」は結界であり、「くぐる」は、母親の産道をくぐることに象徴されるように生まれた時と同じ清浄無垢な心身に立ち返る行為に信じられています。

でも天満宮ではなぜ藤葛？

当宮では、全国でも珍しい藤の葛を用いています。藤も茅と同じように切っても切っても再生する生命力がありますが、ただそれだけでは説明が付きません。それは当宮の藤葛の輪と茅の輪の構造を見ればわかります。茅の輪は長い茅をしっかりと結び容易に取り外すことが出来ない構造です。一方、藤葛の輪は葛を短く切り揃えて束ねてあり、簡単に取り外せる構造になっています。

これは、江戸後期の防府天満宮の天神信仰の高まりの中で、天神様の力を戴きたい、「あやかりたい」という願いが、更に「持ち帰りたい」となり、そのために「藤葛の輪」と形を変えたのでありましよう。そして、その藤葛はお産や新築など新たな力が必要なお宅へ差し上げられる様になりました。

ですから、「茅(藤)の輪」は「生命力のトンネル」といえましよう。

このように「輪くぐり」は多くの先人達の知恵の詰った行事です。これからの暑い夏に向け、六月三十日の天満宮の「輪くぐり」に参加され、天神様の御加護と「藤葛」の生命力を戴き、家族が健康に過ごせるよう、ご案内申し上げます。

※同封の大祓のチラシをご覧ください。



藤葛を持ち帰るためにうばいあつ参拝者

# こころのふるさと 防府天満宮

防府天満宮天神講社の調査を通して

## はじめに

地域社会を母体とし、社寺参拝など特定の目的を持った集団を講社といい、防府天満宮にも江戸後期より山口県内を始め、近隣県に至るまで数多くの講社が存在していた。それを防府天満宮では天神講社又は単に天神講と呼んでいる。

防府天満宮では昭和四十年に三百以上の講社へ講社社参帳(参拝の証を印す朱印帳)とそれを納める符箱を配布した記録がある。しかし昨今では地縁の希薄化や講師の少子高齢化などにより現存する天神講社もわずかとなった。当宮では講社の存続を願い、貴重なその実態の調査を行っている。この場を借りて調査を終えたうち二つの講社について紹介する。

## ① おおのほら 大野原の天神講社

この島根県鹿足郡吉賀町大野原にある天神講社は「餅搗天神講」とも呼ばれており、万延元年(一八六〇)には天神講として活動していたことが分かっている。

防府天満宮の例大祭前には頭屋の家先には餅搗講の幟旗が掲げられ、鈴木太夫が描いたとされる天神様の御神像が床の間に飾られるが、これらの道具類は現在も引き継がれている。当日は早朝より餅を搗き、その餅は御神像に供えられ地元の人主さんによる神事後、防府天満宮へのお供え、地元の人主さん、講師へと三つに分けられる。講師の方によると「幟旗が掲げられているのを見て、集落の人が集まり、餅を搗いていた。」とのこと、「餅搗」は集落にとって欠かすことのできない秋の一大行事であったという。



▲当宮祠官鈴木太夫が描いたとされる御神像

この大野原の天神講社も現在では二戸の講師のみとなってしまったが、その中で「せっかくの伝統だから途絶えさせない」と、講師だけではなく公民館などに子供を含め多くの人を集めて餅搗きを行うなど、今後の天神講の新しい在り方を模索しているという。



▲御神幸祭当日に当屋庭先に掲げられる幟旗  
(この度の取材のために特別に掲げて頂きました。)



## ② 棚井第一一八番講社 たない

宇部市棚井の講社は現在でも秋の御神幸大祭に参拝する数少ない講社のひとつである。発足は文化十三年（一八一六）で、毎月二名が集落を代表し月参りを行っていたと伝わる。

平成二十八年までは毎月二十五日頃に交代で二三人が防府天満宮へ参拝し、御札と御久米おみくまを持ち帰り講員へ配っていた。



▲講社に配布されていた符箱

中でも一月五月九月（現在は一月三月五月）の二十五日には講員が地元の氏神社である恒石八幡宮へ集まり、天神講の神事を行い、宮司さんによる天神様にまつわる講話を聞いた後直会をしている。地元の方は「昔は集落のほとんどの家は天神講に加入していた。月参りは片道約四十キロを歩いて往復、秋の大祭では門前町の宮市で宿を取り、芝居や防府の町を見物していた。月参りの際には必ず天神様の梅鉢入りの紙に包まれた粟おこしをお土産に買うのが習わしで、子供の頃は一枚の粟おこしを貰うのがなよりの楽しみであった。」と話す。

また棚井地域には今でも多くの天神講社の石燈籠が残っているが、中には過去の資料とは場所が変わっているものもある。話を伺うと「道路の拡張工事の際に処分されそうになっていたものを庭に移したり、水害の際に流されないように避難させた」と説明され「せっかくの地元の伝統なので天神講社をやめる気は無い。」と付け加えられた。講社の営みが棚井地域の重要な文化として根付いていることが伺える。

防府天満宮の天神講社についてご存じの方がいらっしやれば、社務所までご一報下さい。  
担当・高橋（0835-2317700）



▲恒石八幡宮の鳥居と並んで建てられている防府天満宮天神講社の石燈籠

## おわりに

今回二つの天神講社を紹介させていただいたが、現在他の天神講社についても調査中である。そこからは氏神社例祭で天神様に因む牛の市を開く事例や、地元の天神祭の中に花神子や大行司小行司といった防府天満宮固有の諸役が反映されている事例など、様々な形で防府天満宮との結びつきが色濃く残されていることがわかる。

この調査から防府天満宮天神講社は防府天満宮と一對一の関係ではなく、その間に地元の氏神様が介在し、そこでの祭りがコミュニティを形成し地域振興へつながるといふ防府天満宮の天神信仰の特性を見て取ることができる。

# 崇敬会だより

## 第二十二回崇敬会大祭

去る五月一日、第二十二回崇敬会大祭を斎行しました。福田百合子会長以下三十名の参列ではありましたが、昨年引き続き和やかに皆様のお顔を拝見でき、天神様もさぞご安心の事と拝察申し上げます。総会では、永年会員の村田敏夫様に十回参加の表彰がありました。その後宮司より昨年の十月十五日崇敬会東京支部が無事に設立された旨の報告と、令和九年に迎える菅原道真公御神忌一一二五周年大祭の記念事業や募財内容、会員区分の特典などの説明がありました。

直会では参加者の近況報告をしながら交流し、久々に会員相互の親睦を深め本年の大祭を無事盛大に終えました。



### 新規会員紹介

令和四年十一月二十六日以降入会の方々です。(敬称略)

法人会員  
 (株)都屋 福岡市中央区  
 (株)ヒロカネ 福岡市博多区

特別会員  
 佃 康宏 周南市原  
 河野達也 防府市西浦  
 酒向育宏 広島市東区

家族会員  
 辻田香織 山口市吉田  
 山中雅俊 防府市自由ヶ丘  
 埴田尚紀 長門市東深川  
 津森亜弥 防府市中央町  
 村田正道 防府市中区  
 浅野英生 防府市大字台道  
 渡邊 力 防府市上右田  
 賀屋和昭 防府市佐波  
 平井雅志 防府市千日  
 長富浩幸 防府市伊佐江  
 田戸哲二 防府市美和町

桐田一幸 広島市佐伯区  
 清水道子 周南市大字呼坂  
 御手洗豊 防府市栄町  
 玉木俊之 防府市東松崎町  
 西村英勝 防府市上右田  
 河口 隆 岩国市玖珂町

個人会員  
 坂本洋子 防府市新田  
 石川勝典 山口市赤妻町  
 橋迫千代 福岡県宗像市  
 市川真琴 千葉県成田市  
 原田文子 防府市奈美  
 由川利昭 防府市東三田尻  
 清水喜香 防府市牟礼  
 大木都子 防府市自由ヶ丘  
 荒瀬友紀 防府市多々良  
 金重弘子 山口市小郡  
 新山王政和 愛知県愛知郡

※崇敬会入会をご希望の方は、同封の入会案内を御覧の上、お申込み頂きますようお願い申し上げます。

## 崇敬会との

## ご縁のお蔭で

私はもともとバンドマンをしていましたが、神社の雅楽にも興味がありました。防府に帰りましたまた知り合いに天満宮の神職さんがいらっしやいましたので、雅楽の練習に伺ったり神社の行事に参加したりと天満宮へ行く機会も多くなりました。そんなある日、崇敬会入会のお誘いを頂きました。

「崇敬会」ってなんだろう?と思いつながら恐る恐る(笑)平成二十九年に入会致しました。ご承知のように毎年五月上旬に崇敬会大祭があります。入会して間もない頃は右も左も良くわかりませんでした。毎年参加しているうちにいろんな方との繋がりが広がっていききました。

今年の崇敬会大祭での宮司さんの挨拶の中で御成敗式目第一条の「神は人の敬によって威を増し:」のお話が印象的でした。

私は、数年前から弓道をはじめ、初段を受ける昇段試験の日のことです。その日はたまたま朝粥会の日で、大祓詞を奏上し、お朔日詣りの御幣と朝粥を戴いてから(天神様の力を戴いてから)試験会場に向かいました。

(天神様は百発百中の腕前ですから(笑))。その試験では二射打つのですが、初段は的に当たらずとも基本的な作法などが主な試験となります。名前が呼ばれ緊張もピークに。心の中で「練習の時にはまったく当たらないのに大丈夫やるか?でも練習通りに」など



崇敬会会員 佐鹿淳一(防府市)

と自身に言い聞かせながら練習通りに慎重に弓を引きました。すると一射目が命中!!驚きました。試験の真つ最中ですから喜びを隠しつつ(内心マジか!と)二射目を射るとまたもや命中!!(嘘じゃろー!)。なんと参加者のなかで唯一私だけが二射当たり無事に合格しました。「こんなことあるんだ」と。これはきつと天神様の御加護に違いないとその帰りは道場に帰る前にお礼参りしました(笑)。

「信じる者は救われる」ではないですけど、毎月の朔日詣り朝粥会に参加したり、また誕生日にはお参りするなど節目節目には必ずお参りをしています。そして私は守られて生きていることに感謝しています。ですから、「:人は神の徳によって運を添う」ことを実感していたので宮司さんのお話が心に響いたんだと思います。

神様との繋がりが、人と人、そして崇敬会との繋がりのお蔭で様々なご縁を頂いています。これからも様々な繋がりを大切に毎年、崇敬会大祭を楽しみにしています。





みなさんNHKのテレビ番組「ドキュメント72時間～人形にさよならを～」をご覧になられましたか？4月28日の放送で防府天満宮の人形感謝祭が取り上げられました。

この番組では、ある場所で来場する人達を3日間定点観測しその人間模様を切り取り番組にするもので、熱心なファンも多いようです。

私たち神職も人形感謝祭を奉仕するだけではわからない、人形を持ち込んだ人や家族とその人形との関わりや、その思いの籠った人形に別れを告げるそれぞれの理由が掘り起こされました。

番組途中ではびっくり!!する現象も…

番組の一場面▶



●防府天満宮賞  
題「クライマックス」

防府市 町田 充江



第三十三回（令和四年）  
天神おんな神輿写真コンテスト

●山口県知事賞

「行くよ」

宇部市 秦 保博

●山口県議会議長賞

「いで立ち」

下関市 白本 豊

●防府市長賞

「笛を吹く少女」

下関市 黒木 丸生

●防府商工会議所会頭賞

「手拍子でいこう」

岡本市 岡本 公一

●防府観光コンベンション協会会長賞

「さあ！撮るよ」

下松市 池田 隆夫

●防府天神祭振興会会長賞

「会長！若い！」

防府市 千々松 理香  
(敬称略)

その他 入選作品 三〇点

応募総数 二三四点

たくさんのご応募有難うございました。

ご結婚おめでとう

お二人の末永いお幸せをお祈り致します

日	氏名	氏名
令和5年 1月28日	日高 光稀・千尋	
2月23日	ジョンアレクサンダーカットヒル・悠	
3月10日	永久 翔太・瑞世	
3月19日	紀本 和彦・浩子	
4月9日	嶋津 純一・真紀子	
4月21日	菅原 顕悟・弘子	
4月22日	宇野 史曜・紘子	
5月4日	石田 金重 先人・史織	
5月7日	丸山 慶哲・優衣	
5月13日	田中 貴大・里音	
5月21日	石丸 良太・祐子	
5月27日	宮本 大夢・恵里	
	吉田 陵平・華	
	片山 雄太・智美	
	林 瑞熙・咲希	
	江藤 正一郎・香蓮	



※神前結婚式のお申込みは随時受付けておりますので、社務所へお問い合わせ下さい。(TEL0835-23-7700)

ひたぶる

権禰宜 村松大樹

コロナ禍も五類となり日常を取り戻せるのが楽しみだ。コロナ禍の約三年間を振り返ってみると当宮ではコロナ禍の出口戦略として「コロナだから出来ること」を職員みんなで考え、普段できなきことに挑戦しよう心掛けた。

当宮では長年の懸案であった客殿の改修や社殿へのバリアフリー化、花神子では本来の御酒奉獻の意義を伝え、裸坊のいない御神幸祭では神名旗の新調や古来の行列にあった猿田彦役の復活などした。これらの対応に地元F.M局がインターネット中継をしてくれるなど、祭り本来の意義を広く知らしめることができた。

コロナを理由に祭をやめるのは簡単である。しかし、神様の事を一番に考え、できる限り前向きな方法を模索し、氏子総代の皆様方に協力を得ながら、中止ではなく形を変えたり縮小の中にも祭を進化させ、コロナ後の再スタートにそなえた。

このコロナ禍での祭事行事を乗り越えたことを糧に天神様の更なる発揚を目指し、職員一同ワンチームになった(気がする)笑。



## 節分祭

を斎行。歳男・歳女による「開運招福豆まき」は三年ぶりに行われ、当日は大勢の参拝者が訪れ、久々に境内は大盛況となりました。

また、昨年からの牛替神事発展

会議を受け、本年は牛替券頒布目標数の設定、初詣祈願者への番号券先行付与、福豆頒布所の設営、市内スパー丸久にて子牛券頒布、また丸久様全面協力による景品募集、「お宝くじ」の新設、総代奉仕による景品交換時間の延長など、新たな試みが多々盛り込まれた神事となりました。お陰様で景品数も牛



▲本年の御神幸祭「神牛役」清水善恵氏(福岡市在住)

替券頒布総数も大幅に増加し、社頭もコロナ前と変わらないほどの賑わいを見せました。今後更に会議での議論を進め、牛替神事の更なる発展は勿論、防府市の活性化をも踏まえ、「節分」と言えば防府天満宮の牛替神事」と言われるように進化を遂げて参ります。



## 日誌抄

(令和五年一月〜五月)

毎月1日、15日、25日は月次祭  
毎月1日は朔日詣り(朝粥会)  
毎月25日は天神市(縁日)、神道家月次祭まほろばかふえ  
\*新型コロナウイルス感染症拡大防止等の為※中止

- 1月1日 歳旦祭
- 1〜3日 書き初め会、梅茶接待
- 1〜8日 天神おんな神輿写真展
- 4〜6日 初詣企業参拝を参集殿神殿にて斎行  
新始式
- 5日 梅開花宣言
- 6日 七草粥の会(於参集殿)
- 7日 弓始式
- 10日 鳥取空港受験合格祈願大給馬設置  
米子空港受験合格祈願大給馬設置  
(山口宇部空港・岩国錦帯橋空港は年末に実施)
- 13日 祖霊殿駐車場改修工事開始
- 20日 牛替神事奉仕抽籤児童説明会  
初天神※月次茶会
- 22日 新年役員会
- 25日 牛替え神報新聞折込
- 27日 福豆頒布総代奉仕
- 28日〜29日 福豆頒布総代奉仕
- 31日 一二五式年大祭職旗馬場先へ設置
- 2月2〜3日 節分祭並第一二回牛替神事
- 3日 歳男歳女開運招福豆まき、抽籤児童奉告祭
- 4〜10日 牛替神事福運者当籤番号券景品引換  
景品交換総代奉仕(初)
- 4〜5日 一二五式年大祭祭典・行幸部会  
牛替神事当籤者神牛引き渡し
- 8日 紀元祭、人形感謝祭人形受付開始(2月28日迄)
- 10日 第47回防府お針祭
- 11日 出世梅奉製作業総代奉仕
- 17日 甘酒接待、期間中梅まつり限定朱印頒布、NHKドキュメント(72時間密着取材)
- 19日〜3月5日 第十八回梅まつり(期間中土日敬神婦人会)
- 19日 梅まつり始祭稚児舞紅わらべ奉納、出世梅無料配布
- 24〜26日 脇本順子作陶展、平井佳代布小もの作品展、手作りアークセサリー(O.T.C.)アタタニナハラ
- 25〜26日 池坊防府支部奉納生花展、櫻園山城屋茶舗京の陶磁器展
- 25日 節分祭発展会議
- 26日 梅花祭稚児舞紅わらべ奉納、総代就任奉告祭、出世梅無料配布、梅まつり茶会表流山本百次会奉仕、萌えさき会琴演奏会、天神芸術村開催
- 3月1日 人形感謝祭、総代就任奉告祭
- 1〜5日 人形里親探し
- 3日 出世梅無料配布、敬神婦人会甘酒接待
- 5日 責任役員会

# 天神様の冬から春

天神様から「幸せます」

※幸せますは山口の方言で「ありがたい」とか「嬉しく思う」との意味があります。

奉納品

ご奉納ありがとうございました。

4月26日 災害用備蓄水(500ml)100ケースベル商事様



▲5月1日 錦鯉 90尾奉納  
全日本愛鱗会山口県支部様  
当日は松崎幼稚園園児の皆さんと一緒に茶室の池へ放流してくれました。

境内清掃奉仕等

ご奉仕ありがとうございました。

- 2月3日、3月17日、4月14日他 高川学園サッカー部様
- 3月2日 松崎小学校六年生
- 4月27、28日他 庭園文化研究会様

## 新任のご紹介

(敬称略)

- 責任役員** 小山昌弘(三行市区) 三月十五日付  
中村元彦 四月十二日付
- 崇敬者総代** 清水喜香 令和四年十二月十四日付  
大和 馨(八行市区) 二月二十六日付  
原田孝之(八行市区) 〃  
池永忠穂(七行市区) 三月一日付  
小山正人(三行市区) 三月十五日付  
加賀真也(四行市区) 四月十二日付

## 職員人事

(四月一日付)

新入巫女



渡邊奈々葉  
(防府市出身)

新入職員

園丁 田村 靖

宜しくお願致します。







# 令和5年夏・秋 これからの祭事行事

六月三十日(金)

十三時〜禍除祈願祭

受付場所 客殿 初穂料 五千円

十四時〜御田植祭

並びに輪くぐり神事

十六時〜夏越大祓

※御田植祭終了後、苗はご自身でお取り頂きます。また、輪くぐり神事・名越大祓も例年通り斎行致します。



▲輪くぐり神事  
※同封の案内状をご覧ください  
※同封の案内状をご覧ください

七月一日(土)〜七日(金)七夕まつり

祭事予定

七月一日〜七日 回廊内笹飾り、光の斎庭

一日 ひこぼし★おりひめコンサート、七夕茶会他  
二日 筆まつり・七夕書道展  
表彰式  
七日 七夕祈願祭

祈願料 二、〇〇〇円



▲七夕飾り・アンブレラスカイ



▲光の斎庭(傘玉)

※同時の短冊にお願い事を書いて奉納ください。神職・巫女が竹笹に結び願いが叶うよう祈念します。

八月三日(木)〜五日(土) 御誕辰祭

御祭神「菅原道真公」のお誕生日をお祝いするお祭り

祭事行事予定

三日〜五日 万灯の夕べ、献灯・文芸ボンボリ・ピアガーデン

三日 奉納清書展奉納奉告祭並表彰式、万灯祭、剣道大会

四日 豊穰祈願祭、古武道大会、柔道大会、夫婦円満祈願祭

五日 御誕辰祭当日祭、少年剣道大会、弓道大会、大花火大会

御誕辰祭  
文芸ボンボリ奉納のお願い

ご奉納頂ける方には要項をお送り致しますので、社務所にお問い合わせ下さい。申込用紙に必要事項をご記入の上、メールまたはご郵送でご返信願います。



▲大花火大会

九月上旬 鈴虫放生祭

平成二十八年(野村望東尼没後百五十年)より縁ある大専坊にて望東尼の御神霊をお慰めすると共に望東尼の顕彰と鈴虫坂の由来となりました鈴虫の放生を斎行します。

十月八日(日) 十月第四日曜日 花神子社参式

大行司・小行司役が御神幸祭の無事斎行を祈る

大行司・小行司役が醸した一夜御酒を花神子が奉献する社参の式であり、約五〇〇名にも及ぶ優美な時代行列が本陣から社殿まで肅々と進みます。



十一月二十五日(土) 十一月第四土曜日 御神幸祭(裸坊祭)

二十六日(日) 御神幸祭・報賽祭(天神おんな神輿奉納)

菅公に「無実の知らせをお伝えし御心をお慰めする壮大なお祭り」裸坊奉仕者・天神おんな神輿奉仕者募集中! 詳しくはホームページをご覧ください。



▲土曜日の男祭



▲日曜日の女祭

十二月六日・七日・八日・九日 大祓詞浄書会(四回開催予定)



どこにいても SNS で防府天満宮と繋がるよ〜 #ほうふは魅力がほうふ #防府天満宮



四季の移ろい 祭典模様 お知らせ



さかたり第111号  
令和5年6月1日発行  
発行所 防府天満宮社務所

〒747-0029  
山口県防府市松崎町14-1  
TEL 0835-23-7700  
FAX 0835-25-0001



防府天満宮

検索

